

令和5年度（2023年度） シラバス フォーマット I

教科	英語	科目	English Communication II	2学年	必修	4単位
科目の目標	英語の文章を読んだり聞いたりすることにより視野を広げ、ことば・文化・人間・社会・自然などについて深く理解し、筆者や自分の考えを相手に伝える力を伸ばす。					
教科書	CROWN English Communication II New Edition	副教材	Ultimate, Crown English Communication II Workbook Advanced, Crown English Communication II サブノート, DataBase 4500			
準備物	教科書・辞書・ファイル					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】			【行動力】 【共感力】
割合	20%	話す・聞く (20%)	書く (20%)	読む (20%)	20%
A	英語を通じて、他を受け入れ、個人の価値を尊重することが十分にできている。	適切なリズム・イントネーション・語彙を用いて相手に伝えるように話すことができ、聞いた内容について正しく理解し、概要や要点を十分に把握できている。	既習事項を用いて、伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、英文を正しく書くことができている。	文法・語法、文の構造などを正しく理解することができ、筆者の意図や登場人物の感情等を的確に読み取ることができている。	ことばの学習を通じて異文化への認識を深めるとともに、多角的に物事を見たり他者の意見を尊重する姿勢が十分養われている。
評点	16~20	16~20	16~20	16~20	16~20
B	英語を通じて、他を受け入れ、個人の価値を尊重することができている。	相手に伝わるように話すことができ、聞いた内容について正しく理解し、概要や要点を把握できている。	既習事項を用いて、伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、英文を書くことができている。	文法・語法、文の構造などを理解することができ、筆者の意図や登場人物の感情等を読み取ることができている。	ことばの学習を通じて異文化への認識を深めるとともに、多角的に物事を見たり他者の意見を尊重する姿勢が養われている。
評点	8~15	8~15	8~15	8~15	8~15
C	英語を通じて、他を受け入れ、個人の価値を尊重することが不十分である。	相手に伝わるように話すことや、聞いた内容について正しく理解し、概要や要点を把握することが不十分である。	既習事項を用いて、語句や表現を選択し、英文を書くことが不十分である。	文法・語法、文の構造などを理解することや、筆者の意図や登場人物の感情等を読み取ることが不十分である。	ことばの学習を通じて異文化への認識を深めるとともに、多角的に物事を見たり他者の意見を尊重する姿勢が不十分である。
評点	~7	~7	~7	~7	~7
評価方法	定期考査 各種テスト	表現活動 各種テスト	定期考査 提出物	定期考査 提出物	授業の様子

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	主な言語材料	具体的な学習内容
4	Lesson 1 Lost in Translation	不定詞の受け身/動名詞の受け身意味上の主語/不定詞の受け身/動名詞の受け身	翻訳の難しい言葉や言語による表現の違いについて、理解して考えを深める。
5	Lesson 2 One Book Can Empower a Child	動名詞の意味上の主語/不定詞の完了形	学校に通えない子どもたちやボランティア団体SVAの活動について、理解して考えを深める。
6	Lesson 3 Accessible Japan	さまざまな分詞構文/強調構文	ジョシュ・グリズデイルさんの活動や考え方について、理解して考えを深める。
7	Lesson 4 Crossing the Border	関係副詞の非制限用法/不定詞+前置詞	「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の経験や考え方について、理解して考えを深める。
8	Lesson 5 Mental Toughness	前置詞+関係代名詞/無生物主語の他動詞構文	スポーツ選手が実践している「メンタル・タフネス」について、理解して考えを深める。
10	Lesson 6 Walking in Gaudi's Footsteps	助動詞+have+過去分詞/Sis C	サクラダ・ファミリアの主任彫刻家・外尾悦郎の彫刻家になるまでの経緯や考え方について、理解して考えを深める。
11	Lesson 7 Why Biomimicry?	if節のない仮定法/未来に関する仮定法/仮定法現在	「バイオミミクリー」や人間と自然との共生について、理解して考えを深める。
12	Lesson 8 Invisible No Longer	be to不定詞/結果を表す不定詞	コートジボワールのカカオ農園の実情や女性の権利向上のための活動について、理解して考えを深める。
1~2	Lesson 9 Nudges	未来進行形/未来完了形/受け身の進行形	人間の行動を後押しする「ナッジ」の仕組みや危険性について、理解して考えを深める。
2~3	Lesson 10 Are We Alone?	独立分詞構文/倒置	地球外生命体の存在可能性についてのリチャード・ドーキンス博士の考え方について、理解して考えを深める。

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- 1) 予習サブノートを活用し、十分な準備をして、理解が不十分などところを見つけ出し、授業に臨む。
- 2) 文章を読んで、おおよその内容や全体的な流れを把握する。
- 3) 授業中は、教科書・ノート・辞書・参考書等を活用しながら、授業内容の理解に努める。
- 4) 文章の意味や内容を考え、語彙や文法事項を理解し、リズムやイントネーションを意識しながら、繰り返し音読を行う。
- 5) 授業での言語活動（ペアワークやグループワーク、発表など）には積極的かつ主体的に取り組むこと。
- 6) 授業終了後は、ワークブック等を活用して必ず復習をし、知識の定着を図るとともに、参考書や問題集等を通じて、発展的な内容に自ら取り組むこと。
- 7) 音声教材等を利用して、情報や話し手の意向を理解する。
- 8) 週末、長期休業中の課題等に取り組むことを通して、家庭での学習習慣の確立を図ること。

令和6年度（2024年度） シラバス フォーマット I

教科	英語	科目	英語Basic	必修	2単位
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、4技能（聞く・書く・読む・話す）の精度を高める。				
教科書	新・英語の構文150	副教材	新・英語の構文150学習ノートvol.1～3、活用ワークブック、Scramble英文法・語法、Ultimate		
準備物	教科書・ノート・辞書				

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】		【行動力】 【共感力】
割合	25%	表現 (25%)	理解 (25%)	25%
A	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などをしっかり理解している。	学んだ文法を用いて、様々なトピックについて文章を書いたり、話したりすることができている。	音声教材やペアを組んだ相手の話を的確に捉えたり、パラグラフの構成や文章の要点を理解することが十分できている。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとしている。
評点	19～25	19～25	19～25	19～25
B	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	学んだ文法を用いて、限定的なトピックについて文章を書いたり、話したりすることができている。	音声教材やペアを組んだ相手の話を的確に捉えたり、パラグラフの構成や文章の要点を理解することができている。	コミュニケーションに関心を持ち、言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとしている。
評点	9～18	9～18	9～18	9～18
C	言語やその運用についての知識や、その背景にある文化などの理解が不十分である。	学んだ文法を用いて文章を書いたり、話したりすることが不十分である。	音声教材やペアを組んだ相手の話を的確に捉えたり、パラグラフの構成や文章の要点を理解することが不十分である。	コミュニケーションに関心を持ち、言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする姿勢が不十分である。
評点	～8	～8	～8	～8
評価方法	定期考査 各種テスト	定期考査 表現活動	定期考査 表現活動	授業の様子

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	主な言語材料	具体的な学習内容
4	第2回	動詞・助動詞を含む表現	be said to do seem to do learn to do 等
5	第3回、第4回	不定詞	不定詞
6	第5回	動名詞	動名詞
7	第6回、第7回	分詞	分詞
8	第8回、第9回	副詞節	副詞節
9	第10回	名詞節	名詞節
10	第11回	関係詞節	関係詞節
11	第12回	比較	比較
12	第13回	否定	否定
1	第14回	仮定法	仮定法
2	第15回、16回	強調・倒置 挿入・省略・同格	強調構文 倒置 挿入・省略・同格
3	第17回、第18回	対比・列挙・例示 名詞構文・無生物主語・修飾語	対比・列挙・例示 名詞構文・無生物主語・修飾語

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- 1) 参考書等を活用し、十分な準備をして、理解が不十分なところを見つけ出し、授業に臨む。
- 2) 授業中は、教科書・ノート・辞書・参考書等を活用しながら、授業内容の理解に努める。
- 3) 授業での言語活動（ペアワークやグループワーク、発表など）には積極的かつ主体的に取り組むこと。
- 4) 授業終了後は、ワークブック等を活用して必ず復習をし、知識の定着を図るとともに、参考書や問題集等を通じて、発展的な内容に自ら取り組むこと。
- 5) 週末、長期休業中の課題等に取り組むことを通して、家庭での学習習慣の確立を図ること。

令和6年度 シラバス

教科	理科	科目	化学	2学年	必修	2単位
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。					
教科書	化学 (数研出版)	副教材	サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版) 新課程 リードα 化学基礎+化学 (数研出版)			
準備物	教科書・ノート・サイエンスビュー・リードα					

1 学習目標と評価 (どのような力を、どのレベルまで身に付けるか)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【探究力】 【行動力】
割合	40%	40%	20%
A	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を十分に身に付けている。実験に関する技能を十分に習得している。実験データの収集し、分析・考察など化学的に探究することが十分にできる。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが十分にできる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が十分に養われている。
評点	33~40	33~40	17~20
B	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を身につけている。実験に関する基本的な技能を習得している。実験データを収集し、分析・考察など化学的に探究することができる。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することができる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が養われている。
評点	17~32	17~32	9~16
C	物質に関する原理・法則の理解や、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方が不十分である。実験に関する基本的な技能の習得が不十分である。実験データを収集にとどまり、化学的な探究が不十分である。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが不十分である。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が不十分である。
評点	~16	~16	~8
評価方法	定期考査・実験レポート・小テスト	定期考査・実験レポート・小テスト	実験レポート・提出物 授業の感想等

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4月 ～ 9月	前期は化学基礎を履修	
10月	第1編 物質の状態 第1章 固体の構造	結晶構造、アモルファス、結晶格子、充填率 分子間力
	第2章 物質の状態変化	物質の三態、熱運動、沸点・融点と化学結合 気液平衡と蒸気圧、
11月	第3章 気体の性質	気体の法則、気体の状態方程式、混合気体、気 体の分子量、理想気体と実在気体
	第4章 溶液	溶解平衡、溶解度、蒸気圧降下、沸点上昇、凝 固点降下、ヘンリーの法則、コロイド
後期中間考査		
12月	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	反応エンタルピー、ヘスの法則、結合エネル ギー、化学反応と光
	第3章 化学反応の速さとしくみ	化学反応の速さ、反応速度とその条件、反応速 度式、触媒のはたらき、活性化エネルギー
1月	第4章 化学平衡	可逆反応、化学平衡、化学平衡の法則
2月		平衡定数と圧平衡定数、平衡状態の変化、ル シャトリエの原理、電離平衡、水素イオン濃度 とpH、弱酸・弱塩基のpH、電離定数、塩の性質 と加水分解、加水分解定数
後期期末考査		
3月		緩衝液、緩衝作用、緩衝液のpH、溶解度積

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- ・2年生では前期に化学基礎、後期に化学を学習する。
- ・化学は、前期で学習した化学基礎の知識や考え方を活用することが前提なので、しっかりと復習をして授業に臨むこと。特に、物質量や化学反応の量的関係に関しては、漏れがないように気をつけること。
- ・第1編では、物質量や粒子数・気体の体積・濃度と、それぞれの状態における関係をしっかりと確認しながら理解を深める。
- ・第2編では、各単元ごとに、化学基礎での学習内容が大きく活かされていく。
- 第1章化学反応とエネルギーでは、化学反応式の作成や量的関係に触れながら、化学反応が起こる原理やエネルギー変化を理解する。物理・生物の科目との共通性にも意識しながら学習すること。
- 第2章電池・電気分解については、化学基礎の酸化還元反応の単元で学習する。
- 第3章化学反応の速さとしくみでは、物理基礎の速度の考えを化学反応に置き換えて、表現し、また反応速度の条件について理解を深める。
- 第4章化学平衡では、化学反応のしくみを理解しながら化学平衡という現象について理解を深める。また、酸と塩基の知識を用いて、pHの計算、塩の沈殿の条件について学習する。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	理科	科目	生物	2学年	選択	3単位
科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。					
教科書	高等学校 生物 (第一学習社/生物705)	副教材	新課程 リードα 生物(数研出版) 新課程版 スクエア最新図説生物(第一学習社)			
準備物	教科書・ノート・図説・問題集・授業プリント用ファイル					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】	【分析力】 【思考力】 【表現力】	【探究力】 【行動力】
割合	40%	40%	20%
A	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を十分に身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が十分に身に付いている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度を十分に身に付けている。
評点	34～40	34～40	17～20
B	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が身に付いている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度を身に付けている。
評点	13～33	13～33	7～16
C	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が不十分である。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が不十分である。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度が不十分である。
評点	～12	～12	～6
評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 授業プリント	実験レポート 授業プリント 授業態度

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	第1章 生物の進化と系統	生命の起源と細胞の進化
5		遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 進化のしくみ
6	第2章 生物の系統と進化	生物の系統
前期中間考査		
7		人類の系統と進化
8	第3章 細胞と分子	生体物質と細胞
9		タンパク質の構造と性質 生命現象とタンパク質
前期期末考査		
10	第4章 代謝	代謝とエネルギー
11		炭酸同化 異化
後期中間考査		
12	第5章 遺伝情報とその発現	DNAの複製 遺伝子の発現
1	第6章 遺伝子の発現調節と発生	遺伝子の発現調節
2		発生と遺伝子の発現
後期期末考査		
3		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- ① 授業中は、自分が今何を学んでいるのかを意識しつつ、それらを理解するために熱心に考えましょう。
- ② 教科書に書かれている文章の意味を正確に理解するため、丁寧に読みましょう。
- ③ 教科書や問題集に出ている重要用語について、文章で説明できるようにしましょう。
- ④ 生物現象を深く理解するために、グラフや表を用いて比較したり、関連づけたりできるようにしましょう。
- ⑤ 必要に応じて、先生や友達と学習内容について対話して、理解を深めましょう。
- ⑥ 観察や実験を行うときは、どのような結果になるかを予想したり、仮説を立てたりしながら進めましょう。
- ⑦ より深い理解のために、インターネットや図説を効果的に利用しましょう。
- ⑧ 適宜、学習内容を振り返って次の学びにつなげましょう。
- ⑨ 大学入試などの良問に取り組むことも、そのテーマの先達との対話であり、深い理解につながります。

令和6年度（2024年度） シラバス（物理）

教科	理科	科目	物理	2学年	必修	3単位
科目の目標	物理的な事物・現象について観察・実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。					
教科書	物理 (東京書籍)	副教材	セミナー物理 (第一学習社)			
準備物	授業プリント					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】		【探求力】 【行動力】
割合	20%	40%	30%	10%
A	複雑な物理現象をの本質をつかみ、背景に隠れた物理法則を正確に認識し正しく適用できる。	複雑な物理現象の本質をつかみ、適切な物理法則により正しく立式し結論を導くことができる。別解を考え、他者へ提案できる。	複雑な物理現象を正しく図解し、立式することで各物理量の関係を正しくグラフ化できる。物理公式を、根拠を示しながら正確に簡潔に導出できる。	実験、観察において、学習を通じて得た知識を活用して、定量的または定性的に正しく考察ができ、新たな課題を設定することができる。主体的に問題演習に取り組み、分析力、思考力、表現力を高める努力ができる。
評点	17～20	34～40	25～30	8～10
B	日常生活の経験から身についた誤った自然観（誤概念）を解消し物理現象を客観的に理解し、単純な問題に対しては、正しく物理法則を適用できる。	単純な物理現象を客観的に思考し、適切な物理法則を当てはめ、正しく演算し結論を導くことができる。	単純な物理現象を正しく図解し、立式することで各物理量の関係を正しくグラフ化できる。物理公式を、根拠を示しながら概ね正しく導出できる。	実験観察において、学習を通じて得た知識を活用して、定量的または定性的に正しく考察することができる。主体的に問題演習に取り組み、正しい知識の定着を図る努力ができる。
評点	9～16	18～33	13～24	5～8
C	物理現象を主観的にしか理解せず、誤概念を持った状態に留まっているため正しく物理法則を適用できない。	物理現象を誤概念を持った状態で主観的に考えるため、正しい結論を導くことができない。	物理現象について、曖昧な根拠をもとに結論や結果のみを形式的に覚え再現する段階に留まっている。物理公式の多くを導出できない。	実験観察において、定量的または定性的に正しく考察することができない。正しい知識の定着を図るために主体的に努力することができない。
評点	～8	～17	～12	～4
評価方法	定期考査	定期考査	定期考査 提出物（課題）	定期考査 提出物（課題）

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	物理基礎 第2編	さまざまな物理現象とエネルギー
	2章 波	1 波の性質
		2 音と振動
5	物理基礎 第1編	物体の運動とエネルギーの世界
	2章 さまざまな力と そのはたらき	運動の法則（摩擦力のある運動方程式の2体問題）
	3章 力学的エネルギー	非保存力がある場合のエネルギーと仕事の関係
	物理 第1部	様々な運動
	第1章 物体の運動と つり合い	第3節 剛体のつり合い 第2節 放物運動
6	前期中間考査	
		第1節 平面内の運動
	第2章 運動量と力積	第1節 運動量の保存
7		第2節 反発係数
	第3章 円運動と単振動	第1節 円運動
		第2節 慣性力と遠心力
8		第3節 単振動
9	前期期末考査	
		第3節 単振動
	第4章 万有引力	第1節 万有引力
10	物理 第2部	波動
	第1章 波の性質	第1節 波の伝わり方 第2節 波の干渉と回折 第3節 波の反射と屈折
11	後期中間考査	
	第2章 音の性質	第1節 音波 第2節 ドップラー効果
12	第3章 光の性質	第1節 光の進み方
1		第2節 光の性質 第3節 レンズと球面鏡
2	後期期末考査	
		第4節 光の回折と干渉□(ヤングの実験・回折格子)
3		第4節 光の回折と干渉□(薄膜の干渉)

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	理科	科目	化学基礎	2学年	必修	2単位
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
教科書	化学基礎（数研出版）	副教材	化学総合資料（実教出版） 新課程 リードLight 化学基礎（数研出版）			
準備物	教科書・ノート・スクエア化学					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【探究力】 【行動力】
割合	40%	40%	20%
A	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を十分に身に付けている。実験に関する技能を十分に習得している。実験データの収集し、分析・考察など化学的に探究することが十分にできる。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが十分にできる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が十分に養われている。
評点	32～40	32～40	17～20
B	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を身につけている。実験に関する基本的な技能を習得している。実験データを収集し、分析・考察など化学的に探究することができる。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することができる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が養われている。
評点	17～31	17～31	9～16
C	物質に関する原理・法則の理解や、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方が不十分である。実験に関する基本的な技能の習得が不十分である。実験データを収集にとどまり、化学的な探究が不十分である。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが不十分である。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が不十分である。
評点	～16	～16	～8
評価方法	定期考査・実験レポート	定期考査・実験レポート	実験レポート・提出物

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4月	第I章物質の構成	
	第3節 物質と化学結合	元素記号、化学式（組成式）、イオン結合
5月	第1節 物質の成分と構成元素	混合物と純物質、元素、化合物と単体 同素体、物質の三態、熱運動
6月	第2節原子の構造と元素の周期表	原子構成、同位体、電子配置と価電子 元素の周期律と周期表
	中間考査	
7月	第3節 物質と化学結合	イオン結晶、共有結合、分子、分子結晶、 電子式、構造式、極性、配位結合、金属結合
8月	第II章 物質の変化	
9月	第1節 物質と化学反応式	相対質量、原子量、分子量、式量、物質質量 アボガドロ定数、物質質量と質量・体積の関係
	期末考査	
10月		溶解と溶液、濃度、化学反応式、イオン反応式 化学反応式における量的関係
11月	第2節 酸と塩基の反応	酸、塩基、 H^+ の授受、価数、電離度と強弱、 水素イオンとpH、指示薬、中和と塩とその反応
	中間考査	
12月		中和滴定、量的関係、滴定曲線、逆滴定
1月	第3節 酸化還元反応	酸素水素の授受、電子の授受、原子の酸化数
2月		酸化剤・還元剤とその強さ、半反応式 金属のイオン化傾向、金属の反応性
	学年末考査	
3月		電池・金属の精錬

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- ・4月当初は、元素記号、化学式、イオン結合についてプリントや小テストを用いて学習し基礎事項の定着を図る時間も設ける。
- ・酸と塩基の反応は、中和滴定を中心に学習する。その中で、実験の操作方法、中和反応の計算を学ぶ。
- ・酸化還元反応においては、日常と酸化還元反応との関わりを学んだり、実験を通して酸化還元反応を理解する。
- ・その他の分野については、教科書、演示実験や原子模型、副教材を用いて学習する。

令和6年度 シラバス

教科	理科	科目	化学基礎	2学年	必修	2単位
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
教科書	化学基礎 (数研出版)	副教材	サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版) 新課程 リードα 化学基礎+化学 (数研出版)			
準備物	教科書・ノート・サイエンスビュー・リードα					

1 学習目標と評価 (どのような力を、どのレベルまで身に付けるか)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【探究力】 【行動力】
割合	40%	40%	20%
A	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を十分に身に付けている。実験に関する技能を十分に習得している。実験データの収集し、分析・考察など化学的に探究することが十分にできる。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが十分にできる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が十分に養われている。
評点	33~40	33~40	17~20
B	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を身につけている。実験に関する基本的な技能を習得している。実験データを収集し、分析・考察など化学的に探究することができる。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することができる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が養われている。
評点	17~32	17~32	9~16
C	物質に関する原理・法則の理解や、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方が不十分である。実験に関する基本的な技能の習得が不十分である。実験データを収集にとどまり、化学的な探究が不十分である。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが不十分である。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が不十分である。
評点	~16	~16	~8
評価方法	定期考査・実験レポート・小テスト	定期考査・実験レポート	実験レポート・提出物 授業の感想等

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4月	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	混合物と純物質、元素・元素記号、 単体と化合物、物質の三態
	第2章 物質の構成粒子	原子構成、同位体、電子配置と価電子 元素の周期律と周期表、化学式（イオン式）
5月	第3章 粒子の結合	化学結合と化学式(分子式・組成式) 結晶、電子式や構造式
6月	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式	相対質量、化学式量(原子量、分子量、式量) 物質質量、化学反応式の量的関係
	中間考査	
7月	第2章 酸と塩基の反応	酸・塩基の定義、価数、電離度と酸塩基の強さ 水素イオン濃度とpH、中和反応と塩の性質
8月	第3章 酸化還元反応	
9月		酸化還元反応の定義、酸化数、半反応式 酸化剤と還元剤、酸化還元反応の量的関係 金属のイオン化傾向、金属の反応性 電池の構造・種類、電気分解 ファラデーの電気分解の法則 電気分解の工業的利用
期末考査		
10月	10月以降は、化学を履修	
11月		
中間考査		
12月		
1月		
2月		
学年末考査		
3月		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

・2年生では前期に化学基礎、後期に化学を学習する。

・前期中間考査までは、化学を学ぶ上での基本事項を勉強する。特に、物質質量については、今後の化学において、非常に重要であるため演習等を行いながら学習する。授業後の復習を欠かさず行うこと。

・酸と塩基の反応は、中和実験を中心に学習する。その中で、実験の操作方法、中和反応の計算を学ぶ。

・酸化還元反応においては、演示実験を用いて、日常と酸化還元反応との関わりを学んだり、実験を通して酸化還元反応を理解する。また、化学の内容である電池や電気分解についての学習を先取りして行う。

・その他の分野については、教科書、演示実験や原子模型、副教材を用いて学習する。

令和6年度（2024年度） 【古典探究シラバス】

教科	国語	科目	古典探究	2学年	必修	2単位
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。					
教科書	古典探究 (大修館書店)	副教材	完全マスター古典文法(第一学習社)・漢文精説(いいずな書店) 古文単語330(いいずな書店)・新訂総合国語便覧(第一学習社)			
準備物	教科書・ノート・完全マスター古典文法・漢文精説					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
			読む		
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】		【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	40%		40%		20%
A	伝統的な言語文化の特徴や言葉のきまりなどについて十分理解し、身につけている。		文章を的確に読み取り、古典の世界観を理解した上で、自分の考えを深めることができている。		国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を十分深めている、
評点	30~40		30~40		16~20
B	伝統的な言語文化の特徴や言葉のきまりなどについて理解し、身につけている。		文章を的確に読み取り、古典の世界観をある程度理解した上で、自分の考えをもつことができている。		国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深めている、
評点	30~20		30~20		8~15
C	伝統的な言語文化の特徴や言葉のきまりなどについて、理解が不十分である。		文章を的確に読み取り、古典の世界観を理解したり、自分の考えを深めたりすることが不十分である。		国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深めることが不十分である、
評点	~19		~19		~7
評価方法	定期考査 小テスト		定期考査 提出物		授業の様子 提出物

※定期考査について…評価の割合は知識・技能40%、思考・判断・表現60%(読む)を定期考査に反映させる
(定期考査の構成は知識・技能40点、思考・判断・表現60点(読む)で、その70~80%を評価に反映させる)

2 学習計画 (いつ、何を学ぶか)

月	単元名	具体的な学習内容
4	『詩経』 『老子』 『論語』 『莊子』 『韓非子』	それぞれの思想と考え方を読み取る。
5	『古事記』 『万葉集』 『竹取物語』 『伊勢物語』 『古今和歌集』 『土佐日記』	描かれている情景を理解して、登場人物の心情を読み取る。 句形を理解する。
前期中間考査		
6	『大和物語』 『枕草子』 『和泉式部日記』	登場人物の心情を理解して、主旨を読み取る。和歌の修辞法を理解している。
7	『長恨歌』 『白氏文集』	句形を理解する。
8	『源氏物語』	筆者の鋭敏な観察眼に着目して読み取る。 古語と現代語の意味の違いを理解する。
前期期末考査		
9	『史記』	戦乱における登場人物の心情を読み取る。 句形を理解する。
10	『源氏物語』	人物の地位や身分を意識して内容を読み取る。 敬語の用法を理解する。
11	『紫式部日記』 『蜻蛉日記』	描写や漢詩から登場人物の人となりを読み取る。 句法を理解する。
後期中間考査		
12	『更級日記』	作者の心情を的確に読み取る。
2	『大鏡』	人間関係を整理し登場人物の微妙な心理を読み取る。 和歌、敬語の用法を理解する。
3	『呂氏春秋』 『蒙求』 杜甫 李白	句法を理解する。
後期期末考査		

3 学習方法(どうやって学ぶか)

- | |
|--|
| <p>①音読を繰り返し、古文や漢文のリズムを体得する。
 ②文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方を理解し、語彙を豊かにする。
 ③文法事項では、文語のきまり、訓読のきまりを理解する。
 ④口語訳を行い、文章の内容を正確に読み取る。
 ⑤古典常識の知識を
 ⑥文章の構成を確かめたり、表現の特色をとらえる。
 ⑦文章に表れた人間、自然、社会などに対する思想や感情などの表現に即して読み味わう。
 ⑧自ら読み取った思想や感情などについて、感じ、考えたことを文章にまとめる。
 ⑨文章の背景に迫り、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。</p> |
|--|

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	情報	科目	情報 I	2学年	必修	2単位
科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
教科書	実教出版「情報 I」(情I705)		副教材	実教出版 情報 I 学習ノート		
準備物	Chromebook					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	40%	40%	20%
A	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて十分理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に十分用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し十分に改善しようとしている。
評点	34～40	34～40	17～20
B	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
評点	18～32	18～32	9～16
C	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについての理解が不十分である。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いるのが不十分である。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしているが、不十分である。
評点	～16	～16	～8
評価方法	定期考査 実習課題	定期考査 実習課題	表現活動 提出物

2 学習計画 (いつ、何を学ぶか)

月	単元名	具体的な学習内容	使用するソフトウェア	評価方法
4	情報社会と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会の特性について ・情報社会の法規と権利 ・情報技術が築く社会 	Webブラウザ プレゼンソフト ワープロソフト	表現活動(主) 実習課題(知・思) 定期考査(知・思)
5	メディアと情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアとコミュニケーション ・情報デザイン ・情報デザインの実践 	Webブラウザ プレゼンソフト ワープロソフト	
6		<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション ・Webページ 	テキストエディタ	
7	システムとデジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システムの構成 	Webブラウザ	
8		<ul style="list-style-type: none"> ・情報のデジタル化 	ワープロソフト	
9	ネットワークとセキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワーク ・情報セキュリティ 	Webブラウザ ワープロソフト	定期考査(知・思)
10	問題解決とその方法	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決 ・データの活用 	Webブラウザ ワープロソフト	表現活動(主) 実習課題(知・思) 定期考査(知・思)
11		<ul style="list-style-type: none"> ・モデル化 ・シミュレーション 	表計算ソフト データベースソフト	
12	アルゴリズムとプログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムとその表記 ・プログラミング言語 ・プログラミングの方法 	ワープロソフト Python Webブラウザ	定期考査(知・思) 実習課題(知・思) 表現活動(主)
1		<ul style="list-style-type: none"> ・関数を使用したプログラミング 		
2		<ul style="list-style-type: none"> ・探索と整列プログラム 	※全期間	
3		<ul style="list-style-type: none"> ・作品制作 ※問題集(予定) 	google workspace ※ タブレットも使用	

令和6年度（2024年度） シラバス 【数学ⅡBC】

教科	数学科	科目	数学Ⅱ・数学B・数学C	2学年	必修	3・2・1単位
科目の目標	(1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、それぞれの問題に相応しい解法を選択することができる。 (2) 事象を論理的に考察する力、他の事象との関係を認識し、多面的・発展的に考察する力を養う。 (3) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。					
教科書	数学Ⅱ・数学B・数学C（数研出版）	副教材	4STEP（数研出版）・（青）基礎からのチャート式（数研出版）			
準備物	教科書 ・ 4STEP ・ ノート ・ 4STEP用ノート					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	認知力・分析力	分析力・思考力・表現力・探究力	行動力
割合	40%	40%	20%
A	<ul style="list-style-type: none"> 数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に十分に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力を十分に身に付けている。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分に身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的根拠に基づき、十分に判断できる。 問題解決の過程を振り返って十分に評価・改善できる。
評点	21~40	21~40	6~20
B	<ul style="list-style-type: none"> 数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的にやや理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能をやや身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力をやや身に付けている。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をやや身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的根拠に基づき、やや判断しようとしている。 問題解決の過程を振り返ってやや評価・改善しようとしている。
評点	11~20	5~20	1~5
C	<ul style="list-style-type: none"> 数学における基本的な概念や原理・法則などの理解が不十分である。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力が不十分である。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的根拠に基づき、判断しようとしていない。 問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていない。
評点	0~10	0~4	0
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の取組み状況 数学的活動への取組み状況 その他

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名		具体的な学習内容
4	数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式		1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式 <単元テスト>
5	第3章 図形と方程式	第1節 点と直線	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 5. 円の方程式 6. 円と直線
6		第2節 円	7. 2つの円 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域 ◎前期中間考査
7		第3節 軌跡と領域	
8	数学B 第1章 数列	第1節 数列とその和	1. 数列 2. 等差数列とその和 3. 等比数列とその和 4. 和の Σ 5. 階差数列 6. いろいろな数列の和
9	数学Ⅱ 第4章 三角関数	第2節 数学的帰納法	7. 漸化式と数列 8. 数学的帰納法 ◎前期期末考査
10		第1節 三角関数	1. 一般角と弧度法 2. 三角関数 3. 三角関数の性質 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の応用 6. 加法定理 7. 加法定理の応用 8. 三角関数の合成 <単元テスト>
11	数学Ⅱ 第5章 指数関数 と対数関数	第2節 加法定理	1. 指数の拡張 2. 指数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数 <単元テスト>
12	数学C 第1章 平面上のベクトル	第1節 平面上のベクトルとその演算	1. 平面上のベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 ◎後期中間考査
1	数学C 第2章 空間のベクトル	第2節 ベクトルと平面図形	5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形 7. ベクトル方程式
2			1. 空間の座標 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形 7. 座標空間における図形 <単元テスト>

1 2	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用 第3節 積分法	1. 微分係数 2. 導関数 3. 接線 4. 関数の値の変化 5. 最大値・最小値 6. 関数のグラフと方程式・不等式 7. 不定積分 8. 定積分 9. 面積 ◎後期期末考査
3	数学B 第2章 統計的な憶測	第1節 確率分布 第2節 統計的な憶測	1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の変換 4. 確率変数の和と期待値 5. 独立な確率変数と期待値・分散 6. 二項分布 7. 正規分布 8. 母集団と標本 9. 標本平均とその分布 10. 推定 11. 仮説検定 <単元テスト>

3 学習方法(どうやって学ぶか)

- (1) 学習する内容を理解するだけでなく、学習する目的や必要性も意識すること。
- (2) 単に公式を暗記するのではなく、公式ができた理由やその活用の仕方から数学的な見方や考え方のよさを知ること。
- (3) 「なぜ」「どうして」という疑問をもちながら授業に参加すること。
- (4) 数学は積み重ねが大切な教科です。必ず予習をし、授業のあった日は必ず副教材で復習すること。この繰り返しが学力の向上につながります。

世界史探究	単位数	3 単位
	学科・学年・学級	全日制普通科 第2 学年 1・2 組
使用教科書、副教材等	東京書籍「世界史探究」(世探 701)、 「要点マスター世界史探究 整理と演習」	

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 学習の計画

学習の計画

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
4 月	序章――世界史へのまなざし		○世界史探究の導入としての位置づけを踏まえ、生徒が現在と異なる過去や現在につながる過去に触れ、世界史学習の意味や意義に気づくようにする。	○諸事象の来歴や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を多面的・多角的に考察する。 ○諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を多面的・多角的に考察する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		1 茶と世界史	○身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を理解する。	○「茶」の来歴に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察する。
		2 地球と人類の誕生	○現生人類はどのようにして地球全体に拡散していったのかについて理解する。	○現生人類はどのようにして地球全体に拡散していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察する。
4月	第1編 諸地域の歴史的特質	諸地域の歴史的特質への問い	○王権と身分・階級、生活と生業、宗教、文化・思想などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し、問いを表現する。	○王権と身分・階級、生活と生業、宗教、文化・思想などに関する諸資料を活用し、問いを設定し、情報を読み取ったりまとめたりする。
4月	第1章 古代文明の出現		○各地域の古代文明について、その共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。	
		1 農業と気候	○農耕と牧畜のはじまりにより人類の生活様式が大きくかわったことや、地球上のさまざまな自然環境に応じて文明が誕生したことについて理解する。	○農耕と牧畜のはじまりによって人類の生活様式が大きくかわったことについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 古代オリエントとエーゲ海地域	○メソポタミア文明、エジプト文明、エーゲ文明がそれぞれの自然環境とどのように関係しておこったのか、それらの文明がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○メソポタミア文明、エジプト文明、エーゲ文明がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 南アジアの古代文明	○インダス文明が南アジアの自然環境とどのように関係しておこったのか、インダス文明やアーリヤ人の来住がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○インダス文明やインドへのアーリヤ人の来住がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 東アジアにめばえた文明	○黄河文明が東アジアの自然環境とどのように関係しておこったのか、黄河文明や殷・周がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○黄河文明や、殷や周の王朝がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○古代文明の歴史的特質について、自らの学習を振り返り、学びを深める。
4月・5月	第2章 西アジアと地中海周辺		○西アジアと地中海周辺の国家がどのように影響を及ぼしあい、どのような共通点をもっているかなどについて理解する。 ○この世界で成立した宗教が現在の世界の宗教分布とどのように関係	

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
			しているかについて理解する。	
		1 古代オリエントの統一	○アッシリアとアケメネス朝ペルシアの統治の共通点と相違点を理解する。	○アッシリア帝国とアケメネス朝ペルシアがどのような共通点と相違点をもっているかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 古代ギリシアとヘレニズム世界	○アテネの民主政と現代の民主政にはどのようなちがいがあのかについて理解する。	○アテネの民主政と現代の民主政にはどのようなちがいがあのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 ローマ帝国と地中海世界	○ローマがなぜ共和政から帝政に移行したのかについて理解する。	○ローマがなぜ共和政から帝政に移行したのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 古代末期の社会と地中海世界の解体	○ローマ帝国の政治、社会、宗教の変化やキリスト教の広まりが、その後のヨーロッパや西アジアにどのような影響を与えたのかについて理解する。	○ローマ帝国の政治、社会、宗教の変化やキリスト教の広まりが、その後のヨーロッパや西アジアにどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○古代ギリシアとローマ世界の共通点と相違点について、自らの学習を振り返り、学びを深める。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		5 地中海世界とアジア	○ローマ帝国と西アジアが、南アジアや東アジアとどのようにつながっていたのかについて理解する。	○ローマ帝国と西アジアが、南アジアや東アジアとどのようにつながっていたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		●2世紀の世界	○東西に成立した大帝国にはどのような共通点と相違点があるか、またそれらはどのような歴史的背景にもとづいているのかについて理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、2世紀の世界を概観する。
		6 イスラーム世界の成立	○イスラームとはどのような特徴をもった宗教なのか、どのように広まったのかについて、ほかの宗教と比較するなどして理解する。	○イスラームとはどのような特徴をもった宗教なのか、どのように広まったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		7 中世初期の東西ヨーロッパ	○東西ヨーロッパはそれぞれどのような変容をとげたのか、どのように影響を及ぼしあい、どのような相違点と共通点をもっていたのかについて、理解する。	○東西ヨーロッパはそれぞれどのような変容をとげたのか、どのように影響を及ぼしあい、どのような相違点と共通点をもっていたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴について、自らの学習を振り返り、学びを深める。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
5月	第3章 南アジア		○南アジア地域を特徴づける「多様ななかの統一」とはどのようなことなのかなどについて理解する。	
		1 南アジアにおける国家形成	○南アジアの諸宗教の特徴について理解する。	○南アジアの諸宗教はどのような特徴をもっているかなどについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 インド世界の形成	○南アジアの国家や社会の特徴について理解する。	○南アジアの国家や社会はどのような特徴をもっているかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○南アジアの歴史的特質について、自らの学習を振り返り、学びを深める。
5月	第4章 東南アジア		○東南アジア地域における国家形成が交易や思想・文化とどのように関係しているのかなどについて理解する。	
		1 海の道の形成と東南アジア	○東南アジア地域において、国家がどのように形成されたのかについて理解する。	○東南アジア地域において、国家がどのように形成されたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 東南アジア諸国家の再編成	○島嶼部と大陸部の国家や文化がそれぞれどのような特徴をもっているのかについて理解する。	○島嶼部と大陸部の国家や文化がそれぞれどのような特徴をもっているのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○東南アジアの歴史的特質について、自らの学習を振り返り、学びを深める。
5月・6月	第5章 東アジアと中央ユーラシア		○東アジアと中央ユーラシアの古代国家はどのようにして生まれたのか、また古代国家の誕生と発展が社会と文化に与えた影響や、それによって生みだされた地域の特色について理解する。	
		1 古代帝国の誕生	○秦漢帝国や匈奴帝国はどのようにして生まれ、どのような性格をもっていたのかについて理解する。	○秦漢帝国や匈奴帝国はどのようにして生まれ、どのような性格をもっていたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		■資料で深める歴史の世界 古代における貨幣は、どのような意味をもっていたのだろうか	○古代中国の青銅貨幣と古代ギリシア・ローマの貨幣を比較し、それぞれの特徴について理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 中国の分裂と多様化	○中国と周辺地域の交流はどのようにして広がったのかについて理解する。	○中国と周辺地域の交流はどのようにして広がったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 隋唐帝国と東アジア	○隋唐帝国はどのようにして諸地域を統合したのか、また、日本や東アジアの国々は隋唐の文化をどのように受容したのかについて理解する。	○隋唐帝国はどのようにして諸地域を統合したのか、また、日本や東アジアの国々は隋唐の文化をどのように受容したのかについて諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○東アジアの歴史的特質について自らの学習を振り返り、学びを深める。
		4 草原地帯のトルコ化とイスラーム化	○トルコ系の民族がユーラシア大陸の広範囲に広がっていく過程について理解する。	○トルコ系の民族がユーラシア大陸の広範囲に広がっていく過程について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○騎馬遊牧民の歴史的特質について自らの学習を振り返り、学びを深める。
		● 8世紀の世界	○8世紀は、ユーラシアの諸地域においてどのような面で転換期であったのか、また諸地域の転換はどのように関連していたのかについて理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、8世紀の世界を概観する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
6月	第6章 アフリカ、オセアニア、古アメリカ		○ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴について、自然環境との関わりに注目しながら理解する。	
		1 アフリカ	○アフリカ大陸に発達した文明の地域ごとの特徴を理解する。	○アフリカ大陸にはどのような文明が発達したのかを、地域ごとの特徴に注目して諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 オセアニア	○人類が広大な太平洋に広がっていく過程を理解する。	○人類が広大な太平洋に広がっていく過程について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 古アメリカ	○南北アメリカ大陸の文明の独自性について理解する。	○南北アメリカの文明にはどのような独自性があるかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○アフリカ、オセアニア、古アメリカの歴史的特質について自らの学習を振り返り、学びを深める。
6月	第2編 諸地域の交流と再編	諸地域の交流・再編への問い	○広がる世界像、宗教や科学・技術および文化・思想の伝播、交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、	○広がる世界像、宗教や科学・技術および文化・思想の伝播、交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化などに関する諸資料を活用し、問いを設定し、情報を読み取ったりまとめたりす

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
			諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。	る。
6月	第7章 イスラーム世界の拡大と繁栄		○アジア・アフリカの広大な地域が、イスラーム文明圏としてまとまった理由などについて理解する。	
		1 イスラーム世界の発展	○カリフと地方政権の関係に注目して、イスラーム世界が複数の国家に分裂していく過程を理解する。	○カリフと地方政権の関係に注目して、イスラーム世界が複数の国家に分裂していく過程を多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 イスラーム文明	○「商業」と「学問」をキーワードに、イスラーム文明の特徴について理解する。	○「商業」と「学問」をキーワードに、イスラーム文明の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○イスラーム世界の拡大と繁栄についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
6月・7月	第8章 中世ヨーロッパ		○9世紀から15世紀にかけて、ヨーロッパ世界ではどのような政治、経済、社会、文化の変動がおこったのか、また、それらの変動の結果は後世のヨーロッパにどのように継承されていたのかなどについて理解する。	

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		1 中世ヨーロッパ社会の展開	○西ヨーロッパの封建社会はどのような背景で成立し、東ヨーロッパの民族・国家・宗教はどのように結びついたのかについて理解する。	○西ヨーロッパの封建社会はどのような背景で成立し、東ヨーロッパの民族・国家・宗教はどのように結びついたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 中世西ヨーロッパ社会の成熟	○11世紀以降、西ヨーロッパの農業、商業、都市はどのように変容したのかについて理解する。	○11世紀以降、西ヨーロッパの農業、商業、都市はどのように変容したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 中世西ヨーロッパの文化	○中世西ヨーロッパの文化は他地域の文化やキリスト教からどのような影響を受けたのかについて理解する。	○中世西ヨーロッパの文化は他地域の文化やキリスト教からどのような影響を受けたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○中世ヨーロッパ社会の展開と成熟についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		4 中世ヨーロッパ社会の再編	○中世後期の西ヨーロッパでは、社会的・政治的にどのような変動がおこったのかについて理解する。	○中世後期の西ヨーロッパでは、社会的・政治的にどのような変動がおこったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		5 ルネサンス	○ルネサンスはどのような社会的背景をもち、どのような影響を後世に与えたのかについて理解する。	○ルネサンスはどのような社会的背景をもち、どのような影響を後世に与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○中世後期のヨーロッパ社会の変動とルネサンスについての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		■資料で深める歴史の世界 レコンキスタ完成でスペイン社会はどのようにかわったのだろうか	○二つの文字資料を読み取り、レコンキスタ完成後のスペイン社会の変化について理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。
7月	第9章 中華世界の変容とモンゴル帝国		○歴史上かつてない規模の世界帝国であるモンゴル帝国はどのようにして生まれ、どのように世界を結びつけたのかなどについて理解する。	
		1 唐の崩壊後の東アジア	○10世紀の東アジア諸国の大変動はどのようにしておこったのかについて理解する。	○10世紀の東アジア諸国の大変動はどのようにしておこったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 宋代の新展開	○唐宋変革とよばれる中国社会の大変革はどのようにしておこったのかについて理解する。	○唐宋変革とよばれる中国社会の大変革はどのようにしておこったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		3 モンゴル帝国	○モンゴル帝国はどのようにして大帝国へと発展したのかについて理解する。	○モンゴル帝国はどのようにして大帝国へと発展したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 元の成立	○モンゴルの支配は、中国や朝鮮、日本の社会や文化にどのような変化をもたらしたのかについて理解する。	○モンゴルの支配は、中国や朝鮮、日本の社会や文化にどのような変化をもたらしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○中華世界の変容とモンゴル帝国についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
9月	第10章 インド洋海域世界の発展と東南アジア		○インドと東南アジアにおけるイスラームの広がりが一様でなかった要因などについて理解する。	
		1 イスラームのインドとインド洋海域への浸透	○イスラームはインド社会にどのように広がり、どのような影響を与えたのかについて理解する。	○イスラームはインド社会にどのように広がり、どのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 海と陸の結合——東南アジア世界の発展	○東南アジアにおいて国家が発展する過程が、島嶼部と大陸部で異なる要因について理解する。	○東南アジアにおいて国家が発展する過程が、島嶼部と大陸部で異なる要因について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○インド洋海域世界の発展と東南アジアについての自らの学習を振り返り、学びを深める。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
9 月	第11章 大交易時代と世界の一体化		○大交易時代に、なぜ世界の各地で社会がほぼ同時に大きく変化したのか、また、世界の諸地域間の関係は、前後の時代と比べてどのように特徴づけられるのかなどについて理解する。	
		1 アジア交易圏の再編と活況	○アジアの交易世界は、なぜマラッカを中心に再編されることになったのかについて理解する。	○アジアの交易圏は、なぜマラッカを中心に再編されることになったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 ポルトガルのアジア進出	○ポルトガルがアジアに進出した理由と、そのことがアジアの交易世界にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○ポルトガルがアジアに進出した理由と、そのことがアジアの交易世界にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 明と日本・朝鮮の動向	○明の国内重視の国家体制と活発な交易がいかに両立したのかについて理解する。	○明の国内重視の国家体制と活発な交易が、いかに両立したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○大交易時代のアジア社会についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		4 一体化に向かう世界	○スペインがアメリカやアジアに進出した理由と、そのことが世界の交易のあり方をどのようにかえたのかについて	○スペインがアメリカやアジアに進出した理由と、そのことが世界の交易のあり方をどのようにかえたのかについて

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		5 大交易時代の世界	○大交易時代に、なぜオランダが最も有力な交易勢力の一つになったのかについて理解する。	て、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○大交易時代に、なぜオランダが最も有力な交易勢力の一つになったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○大交易時代のヨーロッパ社会と世界の一体化についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
9月	第12章 ユーラシア諸帝国の繁栄		○16世紀から18世紀にかけて、アジア諸地域に成立した諸帝国が比較的安定した社会を維持できたのはなぜか、また経済的繁栄はどのようなにもたらされたのかなどについて理解する。	
		1 中央アジアと西アジアの繁栄	○ティムール朝、サファヴィー朝、オスマン帝国の相違点と共通点について理解する。	○ティムール朝、サファヴィー朝、オスマン帝国の相違点と共通点について、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 インドの大国――ムガル帝国	○ムガル帝国の繁栄は、世界の諸地域の動きとどのように関連していたのかについて理解する。	○ムガル帝国の繁栄は、世界の諸地域の動きとどのように関連していたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		3 清と東アジア	○清はなぜ多様な文化や宗教を有する人々を、長期にわたり統治することができたのかについて理解する。	○清はなぜ多様な文化や宗教を有する人々を、長期にわたり統治することができたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○16世紀から18世紀にかけてのアジアの諸帝国についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		●17世紀の世界	○大交易時代を終わらせた世界の変化とはどのようなものだったのかを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、17世紀の世界を概観する。
10月	第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大		○16世紀から17世紀にかけてヨーロッパにあらわれた新しい国家には、どのような特徴があったのか、また、その形成にはどのような要因が働いていたのかなどについて理解する。	
		1 主権国家群の形成と宗教改革	○近世の主権国家はどのような特徴をもっているのか、また国家の形成と宗教にはどのようなかわりがあったのかについて理解する。	○近世の主権国家はどのような特徴をもっているのか、また国家の形成と宗教にはどのようなかわりがあったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		■資料で深める歴史の世界 宗教改革はどのように人々に受けとめられたのだろうか	○二つの木版画を読み取り、ルターや宗教改革に対する人々の受けとめかたを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 オランダの繁栄と英仏の国家形成	○オランダの繁栄と英仏の国家建設の関係、三十年戦争がヨーロッパとドイツに与えた影響について理解する。	○オランダの繁栄と英仏の国家建設の関係、三十年戦争がヨーロッパとドイツに与えた影響について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○主権国家体制の形成についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		3 商業覇権と植民地建設	○ヨーロッパ諸国の貿易と植民地建設は、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ大陸にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○ヨーロッパ諸国の貿易と植民地建設は、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ大陸にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 啓蒙専制国家の発展	○英仏に追いつこうとした新興国ではどのような改革が行われたのかについて理解する。	○英仏に追いつこうとした新興国ではどのような改革が行われたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		5 近世ヨーロッパの社会と文化	○自然科学、哲学、芸術などの分野でどのような新しい思想が生まれたのかについて理解する。	○自然科学、哲学、芸術などの分野でどのような新しい思想が生まれたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○地球規模での交易の拡大についての自らの学習を振り返り、学びを深める。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
10月	第3編 一体化していく世界	一体化していく世界への問い	○人々の国際的な移動、自由貿易の広がり、マスメディアの発達、国際規範の変容、科学・技術の発達、文化・思想の展開などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し、問いを表現する。	○人々の国際的な移動、自由貿易の広がり、マスメディアの発達、国際規範の変容、科学・技術の発達、文化・思想の展開などに関する諸資料を活用し、問いを設定し、情報を読み取ったりまとめたりする。
10月・11月	第14章 国民国家と近代社会の形成		○18世紀半ばから19世紀半ばにかけて、欧米で産業革命や、国民が政治の主体となる国家を建設しようとする動きが広がったのはなぜか、また、このような変革は、現代までどのような影響を与えているのかについて理解する。	
		1 産業革命と工業化	○イギリスで産業革命がはじまった原因について理解する。	○イギリスで産業革命がはじまった原因について、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の独立	○北アメリカの政治変革によって、どのような権利が獲得され、権利が認められなかったのはどのような人々だったのかについて理解する。	○北アメリカの政治変革によって、どのような権利が獲得され、権利が認められなかったのはどのような人々だったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		3 フランス革命とウィーン体制	○フランス革命の展開と他国への影響について理解する。	○フランス革命の展開と他国への影響について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○産業革命と環大西洋革命についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		4 自由主義の台頭と新しい革命の波	○1848年にヨーロッパ諸国でおこった出来事背景と、それによって明らかになった課題はどのようなものだったのかについて理解する。	○1848年にヨーロッパ諸国でおこった出来事背景と、それによって明らかになった課題はどのようなものだったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		5 19世紀後半のヨーロッパ諸国	○ヨーロッパ諸国における国民意識の高まりと覇権競争がどのような結果をもたらしたのかについて理解する。	○ヨーロッパ諸国における国民意識の高まりと覇権競争が、どのような結果をもたらしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		6 南北アメリカの発展	○南北戦争前後の時代のアメリカ各国の社会はどのような課題をかかえていたのかについて理解する。	○南北戦争前後の時代のアメリカ各国の社会は、どのような課題をかかえていたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○欧米での近代社会の形成についての自らの学習を振り返り、学びを深める。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
11 月	第 15 章 世界市場 の形成とアジア諸 国の変容		○産業革命で先行したイギリスが 19 世紀半ばに自由貿易体制を推進したのに対し、後発のヨーロッパ諸国はどのように対応したのか、また、ヨーロッパ発の工業化の波はアジア諸国に何をもたらしたのかについて理解する。	
		1 産業資本主義の世界への波及と欧米社会	○「世界の工場」とよばれたイギリスの急速な工業化が、世界の結びつき方をどのようにかえたのかについて理解する。	○「世界の工場」とよばれたイギリスの急速な工業化が、世界の結びつき方をどのようにかえたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 西アジアの危機と改革のはじまり	○西アジア・北アフリカにおいて、ヨーロッパ諸国との関係の変化はどのような影響をもたらしたのかについて理解する。	○西アジア・北アフリカにおいて、ヨーロッパ諸国との関係の変化はどのような影響をもたらしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 南アジア・東南アジアの植民地化	○南アジアと東南アジアの各地で植民地支配が拡大した理由と、そのことが各地の社会にどのような影響を及ぼしたのかについて理解する。	○南アジアと東南アジアの各地で植民地支配が拡大した理由と、そのことが各地の社会にどのような影響を及ぼしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		4 清における開港の限界と二つのアヘン戦争	○なぜイギリスは清と争ったのか、また、アヘン戦争でのイギリスの勝利は何を意味したのかについて理解する。	○なぜイギリスは清と争ったのか、また、アヘン戦争でのイギリスの勝利は何を意味したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○世界市場の形成とアジア諸国の変容についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
11月	第16章 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行		○アジア諸国が自国の危機をどのように認識し、欧米列強と対峙しながらいかに改革をすすめたのか、また、欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。	
		1 列強の覇権争い	○なぜ19世紀後半にヨーロッパ列強がアフリカ内陸部を分割して支配するようになったのかについて理解する。	○なぜ19世紀後半にヨーロッパ列強がアフリカ内陸部を分割して支配するようになったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 西アジア・中央アジアの変革	○列強に対して軍事的・経済的に劣勢に立たされた西アジアの諸国で生じた変革とその背景について理解する。	○列強に対して軍事的・経済的に劣勢に立たされた西アジアの諸国で生じた変革とその背景について、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 南アジア・東南アジアの民族運動	○南アジアと東南アジアの民族運動のそれぞれの特徴について理解する。	○南アジアと東南アジアの民族運動のそれぞれの特徴について、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		4 清の体制転換と近代国家建設の模索	○経済成長の鈍化や外国の侵略などに、清がどのように対応したのかについて理解する。	○経済成長の鈍化や外国の侵略などに、清がどのように対応したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		●19 世紀後半の世界	○19 世紀後半に人の移動が急速にすすんだのはなぜか、また、移民は移動先の社会にどのような変化をもたらしたのかを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、19 世紀後半の世界を概観する。
12 月	第 17 章 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容		○第一次世界大戦は、なぜ「世界大戦」とよばれ、それまでの戦争とどのような点において異なるのか、そして、それぞれの地域において戦争の経験はどのような意味をもったのかなどについて理解する。	
		1 第一次世界大戦	○開戦時点で短期戦が予想された大戦は、なぜ、どのように長期化したのかについて理解する。	○開戦時点で短期戦が予想された大戦は、なぜ、どのように長期化したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編	○大戦前と大戦後を比べて、国際秩序のあり方はどのようにかわった	○大戦前と大戦後を比べて、国際秩序のあり方はどのようにかわった

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
			のか、また、それはなぜなのかについて理解する。	のか、また、それはなぜなのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 大戦後のアメリカ合衆国とヨーロッパ	○戦間期アメリカに出現した大衆社会とはどのようなものであり、それはほかの諸国や政治のあり方にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○戦間期アメリカに出現した大衆社会とはどのようなものであり、それはほかの諸国や政治のあり方にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 アジア・アフリカでの国家形成の動き	○第一次世界大戦の結果は、アジア各地の独立運動や民族形成にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○第一次世界大戦の結果は、アジア各地の独立運動や民族形成にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第一次世界大戦の展開と諸地域の変容についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
1月	第18章 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦		○世界恐慌は、経済や政治をどのように変化させたのか、また、そのなかで台頭したファシズム国家によって引き起こされた第二次世界大戦の推移は、戦後の国際秩序の再編にどのような影響を与えたのかについて理解する。	

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		1 世界恐慌と政治・経済の変容	○世界恐慌は、諸地域の経済体制、そして政治体制にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○世界恐慌は、諸地域の経済体制、そして政治体制にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 国際協調体制の動揺	○世界恐慌が与えた政治、経済の変化は国際協調体制にどのような打撃を与えたのかについて理解する。	○世界恐慌が与えた政治、経済の変化は国際協調体制にどのような打撃を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○国際協調体制の動揺についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		3 第二次世界大戦の開戦と展開	○ヨーロッパではじまった戦争が、どのようにアジア・太平洋での戦争と連動し、「第二次世界大戦」となったのかについて理解する。	○ヨーロッパではじまった戦争が、どのようにアジア・太平洋での戦争と連動し、「第二次世界大戦」となったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		■資料で深める歴史の世界 イギリスとフランスはなぜ宥和政策をとったのだろうか	○二つの風刺画を読み取り、イギリスとフランスの外交政策とその影響を理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		4 戦後秩序構想と冷戦の形成	○大戦後半に国際秩序の再建はどのように構想され、それがどのように戦後米ソの対立を軸とする冷戦へと展開していったのかについて理解する。	○大戦後半に国際秩序の再建はどのように構想され、それがどのように戦後米ソの対立を軸とする冷戦へと展開していったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第二次世界大戦と戦後秩序構想についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		■資料で深める歴史の世界 ドイツの人々はナチスをどのようにとらえたのだろうか	○さまざまな立場から書かれた文字資料を読み取り、ドイツの人々がナチスをどのようにとらえたのかを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。
1月	第19章 第二次世界大戦と戦後の東アジア		○第二次世界大戦中のアジアの戦後構想と実際のアジアの戦後は、どのような点が連続し、あるいは異なっていたのかについて理解する。	
		1 アジア・太平洋戦争と日本の敗戦	○第二次世界大戦終結への過程で、連合国はどのような戦後構想をいだき、それをどのように実現しようとしたのかについて理解する。	○第二次世界大戦終結への過程で、連合国はどのような戦後構想をいだき、それをどのように実現しようとしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 帝国の解体と分断国家の形成	○日本の敗戦後、「帝国」はいかに解体され、日本の植民地や占領地域	○日本の敗戦後、「帝国」はいかに解体され、日本の植民地や占領地域

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
			はどのような状況に置かれたのかについて理解する。	はどのような状況に置かれたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 アジア諸国の独立と脱植民地化	○第二次世界大戦終結後、植民地支配はどのように再開され、また独立した国はどのような課題に直面したのかについて理解する。	○第二次世界大戦終結後、植民地支配はどのように再開され、また独立した国はどのような課題に直面したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 朝鮮戦争と東アジアの「冷戦」	○朝鮮戦争は東アジアにおける冷戦の形成とどのようにかわり、どのような特徴を残したのかについて理解する。	○朝鮮戦争は東アジアにおける冷戦の形成とどのようにかわり、どのような特徴を残したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第二次世界大戦と戦後の東アジアについての自らの学習を振り返り、学びを深める。
2月	第4編 グローバル化と地球的課題		○国際機構の形成と平和への模索、経済のグローバル化と格差の是正、科学技術の高度化と知識基盤社会などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、地球世界の課題を読み解く観点について理解する。	○国際機構の形成と平和への模索、経済のグローバル化と格差の是正、科学技術の高度化と知識基盤社会などに関する諸資料を活用し、問いを設定し、情報を読み取ったりまとめたりする。
2月	第20章 冷戦の世界化と国際制度		○冷戦のもとで、世界の平和はどのように模索されたのか、また、冷戦	

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
			は世界に広がるなかで、それぞれの地域でどのような意味をもったのかについて理解する。	
		1 冷戦と政治・経済秩序	○冷戦下の世界では、政治、経済、安全保障の秩序はどのように構想されたのか、また、どのような均衡がみられたのかについて理解する。	○冷戦下の世界では、政治、経済、安全保障の秩序はどのように構想されたのか、また、どのような均衡がみられたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 アジア・アフリカ諸国の独立と第三勢力	○独立国となったアジア・アフリカ諸国はどのような課題に直面し、また、これらの国家の出現は国際社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○独立国となったアジア・アフリカ諸国はどのような課題に直面し、また、これらの国家の出現は国際社会にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 平和共存と社会主義圏の多極化	○冷戦下、東西のバランスはどのように推移し、また、多極化はどのように進展したのかについて理解する。	○冷戦下、東西のバランスはどのように推移し、また、多極化はどのように進展したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○冷戦の世界化と国際制度についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
2月	第21章 冷戦の変容・終結と経済のグローバル化		○冷戦の変容にとともに、アメリカ合衆国の経済覇権はどのように動揺したのか、また、その後生じた経済のグ	

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
			ローバル化は何を契機におこり、世界経済をどのようにかえていったのかについて理解する。	
		1 アメリカ合衆国の覇権の動揺と冷戦の変容	○1970年代にアメリカの覇権に動揺が生じた原因は何だろうか、また、それは米ソ関係や世界にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○1970年代にアメリカの覇権に動揺が生じた原因は何か、また、それは米ソ関係や世界にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 冷戦の変容と世界の諸地域	○アジア、アフリカ、ラテンアメリカの各国や社会が、1970年代の冷戦の変容に対してどのような選択をして対応したのかについて理解する。	○アジア、アフリカ、ラテンアメリカの各国や社会が、1970年代の冷戦の変容に対してどのような選択をして対応したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 冷戦の終結とその後の世界	○冷戦は米ソ間やヨーロッパではどのように終結したのだろうか、また、ほかの各地域での冷戦は終結したのかについて理解する。	○冷戦は米ソ間やヨーロッパではどのように終結したのだろうか、また、ほかの各地域での冷戦は終結したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		4 アメリカ合衆国の復調とグローバル化	○冷戦終結後、世界秩序はどのような方向に向かったのかについて理解する。	○冷戦終結後、世界秩序はどのような方向に向かったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○冷戦の変容・終結と経済のグローバル化についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
3月	第22章 21世紀の地球的課題と人類社会		○21世紀に入り、地球上ではどのような問題が生じ、人類社会はどのような課題に直面し、それを克服しようとしているのかについて、これまでの歴史をふまえ、その課題に取り組む当事者として考える。	
		1 グローバル化にともなう世界の変容	○グローバル化にともなって生じた課題にはどのようなものがあり、そうした課題はなぜ生みだされたのかについて理解する。	○グローバル化にともなって生じた課題にはどのようなものがあり、そうした課題はなぜ生みだされたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 地球的諸課題	○なぜグローバル化の進展にともなって解決がいつそう困難になった地球的諸課題があるのかについて理解する。	○なぜグローバル化の進展にともなって解決がいつそう困難になった地球的諸課題があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 新たな秩序変容	○グローバル化の進展によって生じた秩序の変容にはどのようなものがあるのかについて理解	○グローバル化の進展によって生じた秩序の変容にはどのようなものがあるのかについて、多

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
			する。	面的・多角的に考察し、表現する。 ○21世紀の地球的課題と人類社会についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
3月	21世紀の地球的課題と世界史		○世界史探究の学習を基に、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、地球世界の課題を理解する。	○地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している。 ○諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

(1) 評価の時期と方法

ア 「知識・技能」について

評価の方法としては、ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、生徒が文章による説明をしたり、諸資料から情報をまとめる技能を用いたりする場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れる。

イ 「思考・判断・表現」について

評価の方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫する。教科書の各章、各単元冒頭の「問い」や、「深める」、また、「資料で深める歴史の世界」で設定されている課題などを有効に活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を適切に評価する。

ウ 「主体的に学習に取り組む態度」について

主体的に学習に取り組む態度の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、知識及び技能を習得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習のすすめ方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価する。

エ 評価の時期

年間4回の定期考査において、知識の確認だけでなく、三つの観点にもとづいた評価ができるようにする。また、学期末や学年末などの事後での評価に終始することなく、学期の途中などでも各単元など「内容のまとめりごと」に、思考力・判断力・表現力を確認するレポートやワークシートを作成させるなど、適切な学習評価を行うことで、生徒の学習意欲の向上につなげる。

(2) 評定について

定期考査と観点別学習状況の評価と評定の関係について十分留意した上で、総合的に判断する。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	保健体育	科目	体育	2学年	必修	2単位
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。					
教科書	なし		副教材	なし		
準備物	本校指定ジャージ(ハーフパンツ含む)とTシャツ・外運動靴・水泳用具・スキー用具・柔道着(男子のみ)					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【表現力】	【分析力】 【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	40%	30%	30%
A	運動の多様性や体力の必要性について知識・理論と技能が十分に身につけている。	運動課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて分析することが十分にできている。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが十分にできている。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にする、安全を確保して行動する態度が十分に身につけている。
評点	31～40	24～30	24～30
B	運動の多様性や体力の必要性について知識・理論と技能が身につけている。	運動課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて分析ができている。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができている。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にする、安全を確保して行動する態度が身につけている。
評点	11～30	13～23	13～23
C	運動の多様性や体力の必要性について、身につけるべき知識・理論と技能が不十分である。	運動課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けての分析が不十分である。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが不十分である。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にする、安全を確保して行動するなど身につけるべき態度が不十分である。
評点	5～10	5～12	5～12
評価方法	授業時の行動観察 技能テスト	授業時の行動観察 提出・記録物の記述内容	授業時の行動観察 提出・記録物の記述内容

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	男女：体づくり運動	新体力テストを実施する。
	男女：体育理論	運動の取り組み方を学ぶ。
5	男子：球技（ソフトボールorサッカー）	サッカー：状況に応じたボール操作と空間を埋める等の動きによって、空間への侵入などから攻防をする。
	女子：球技（ソフトボール）	ソフト：状況に応じたバット操作と走塁で攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備によって攻防をする。
6 7 8	男女：球技（バレーボール）	状況に応じたボール操作と他者との連携によって空間を作り出すなどの攻防をする。
9	男女：水泳（クロール）	手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり、速く泳いだりする。
	男女：陸上競技（長距離走）	自分の体力に応じて、ペースの変化に対応しながら走る。
10	男子：武道（柔道）	相手の動きに応じた基本動作から相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をする。
	女子：球技（バスケットボール）	状況に応じたボール操作と空間を埋める等の動きによって、空間への侵入などから攻防をする。
11	男子：球技（バスケットボール）	状況に応じたボール操作と空間を埋める等の動きによって、空間への侵入などから攻防をする。
12	女子：ダンス	ダンス特有の表現や踊りを身につけて交流する。
1 2 3	男女：スキー	状況に応じたスキー操作と身体動作の連携によってターンをコントロールして滑る。
	男女：体づくり運動（種目選択）	体力の向上を図るための計画的な運動計画を立てて取り組む。

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- (1)「礼に始まり、礼に終わる」。円滑に人と関わり合うために、必要不可欠な行動様式である。毎回の授業で始まりと終わりの礼についても真剣な態度で臨もう。
- (2)ともに活動する仲間を大切にすること。そのためには、一人一人の違いを認めて、前向きで思いやりのある発言や行動を意識しよう。
- (3)各単元での到達状況を測るために技能テストを行うが、技能向上ためには基本的知識の習得と正しい思考と判断に基づく反復練習が欠かせない。ゆえに自己の能力に応じて、積極的に知識量と運動量を増やすよう心掛けよう。
- (4)持続的な体力の維持・向上のために毎時実施している、体操と補強運動（プッシュアップとシットアップ）に必ず取り組もう。
- (5)主体的に運動することを強く勧める。体育の授業以外で運動に取り組む時間を確保するように努めること。継続的な運動習慣を身につけることが、心身の調和がとれた健康的な生活を送るための第一歩です。
- (6)体育の授業を通して身に付けることは運動に関する知識や技能、それを活用して思考したり表現したりする力であるため、他の教科・科目に応用できる。それを意識して高校の授業に臨もう。

令和6年度（2024年度） シラバス（地理総合）

教科	地理歴史科	科目	地理総合	2学年	必修	2単位
科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。					
教科書	高等学校新地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)	副教材	地理統計要覧2024年版(二宮書店) 新編地理資料2024(東京法令出版)			
準備物	教科書2冊・副教材2冊・プリントファイル・タブレット端末					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【創造力】	【思考力】	【探究力】
割合	33.33%	33.33%	33.33%
A	世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを多面的・多角的に理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、自ずと様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を十分に身に付けている。	地理に関わる概念などを活用して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を十分に身に付け、自ずと捉えた内容を具体と抽象を往還して考えることができている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を十分に身に付けており、自ずと問いを立て、自ずと解決への道筋を立てている。
評点	28～33	28～33	28～33
B	世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを客観的に捉えようとしており、地図や地理情報システムなどを用いて、様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けようと試行錯誤している。	地理に関わる概念などを活用して、客観的に(他者視点で)考察しようとしており、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けようと試行錯誤している。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けており、自ら問いを立てようと試行錯誤している。
評点	15～27	15～27	15～27
C	世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを主観で捉えるにとどまっており、地図や地理情報システムなどを用いて、様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能も不十分である。	地理に関わる概念の活用や考察は主観にとどまっており、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力も不十分である。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が不十分であり、問いも他者から与えられることにとどまっている。
評点	～14	～14	～14
評価方法	定期考査・小テスト	定期考査・小テスト	取組状況 小レポート等

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	地図でとらえる現代世界 －地図と地理情報システム	地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解し、活用の仕方を考察し、表現する
		地図記号小テスト[知]
5	地図でとらえる現代世界 －結び付きを深める現代世界	方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する
		地図小レポート提出[態]
6		前期中間考査[知][思]
	国際理解と国際協力 －生活文化の多様性と国際理解（地形と生活）	地形的要因から世界の人々の生活文化が影響を受けて多様性をもつことについて理解する
7	国際理解と国際協力 －地球的課題と国際協力（資源・エネルギー問題）	資源・エネルギー問題を基に、持続可能な社会の実現を目指した取組や協力の必要性を理解する
		生活圏の地域調査課題[態]
8	持続可能な地域づくりと私たち －自然環境と防災①	世界や地域の自然災害を基に、規模や頻度、地域性を踏まえた備えの重要性について理解する
		地形小レポート提出[態]
9		前期期末考査[知][思]
	国際理解と国際協力 －生活文化の多様性と国際理解（気候と生活）	気候的要因から世界の人々の生活文化が影響を受けて多様性をもつことについて理解する
		ケッペンの気候区分小テスト[知]
10	国際理解と国際協力 －地球的課題と国際協力（地球環境問題）	地球環境問題を基に、持続可能な社会の実現を目指した取組や協力の必要性を理解する
	11	持続可能な地域づくりと私たち －自然環境と防災②
		気候小レポート提出[態]
		後期中間考査[知][思]
12	国際理解と国際協力 －生活文化の多様性と国際理解（世界の産業）	地理的環境から世界の人々の産業が影響を受けて多様性をもつことについて理解する
		100か国国名小テスト[知]
1	国際理解と国際協力 －地球的課題と国際協力（食料・人口問題）	食料・人口問題を基に、持続可能な社会の実現を目指した取組や協力の必要性を理解する
	2	国際理解と国際協力 －地球的課題と国際協力（都市・居住問題）
		産業小レポート提出[態]
		後期期末考査[知][思]
3	国際理解と国際協力 －生活文化の多様性と国際理解（言語・宗教と生活）	地理的環境から世界の人々の言語・宗教が影響を受けて多様性をもつことについて理解する

3 学習方法（どうやって学ぶか）

地理は現代世界のあらゆる事象と関連しており、身近な地域について見つめてみたり、世界や日本の異なる地域を比較したりするなど、空間軸を多様に動かす力も求められます。決して個別・詳細な知識を数多く記憶する「マニア」を目指すことと捉えず、それぞれの国・地域はどのような特色を持っていると考えられるのか、それが他の地域とどのような違いがあり、多様性が尊重されているのかを考察し、自分自身の言葉で明確に表現することが大切です。そのためには、学んだことを頭に叩き込もうとするのではなく、じっくり考えてみる余裕を持つことがとても重要です。ぜひ日頃からニュースに目を向け、どんな社会的な事象に対しても興味を持ち、「なぜ？」と思う気持ちを大事にして、意欲的に取り組んでください。

授業では、地図や統計などの諸資料を活用しながら、上記の目標・内容に則して講義や演習を行います。ワークシートや資料等がありますので、まとめ方は個々に任せますが、その都度ファイルに入れるなどして復習しやすいようにしてください。テーマごとに「問い&解」レポートの提出も求めます。今年は「問い」を自分で立てることにチャレンジしてみましょう。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	地歴・公民	科目	日本史探究		
科目の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
教科書	詳説日本史(山川出版社)	副教材	図説日本史通覧(帝国書院) 4ステージ演習ノート日本史B(実教出版)		
準備物					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目の評価観点	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
割合	40%	40%	20%
A	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能がきちんと身についている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができる。
評点	40～27	40～27	20～14
B	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができる。
評点	26～10	26～10	13～6
C	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができる。

	我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が不十分である。	問題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることがあまりできない。	対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができていない。
評点	9～	9～	5～
評価方法	定期考査	定期考査	プリント作成

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	第1章 日本文化のあけぼの	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。
	第2章 古墳とヤマト政権	地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。
5	第3章 律令国家の形成	律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 前期中間考査
6	第4章 貴族政治の展開	藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。
7		
8	第5章 院政と武士の躍進	院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 前期期末考査
9		
10	第6章 武家政権の成立	鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。
11	第7章 武家社会の成長	南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 後期中間考査
12	第8章 近世の幕開け	大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。
1		
2	第9章 幕藩体制の成立と展開	江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 後期中間考査
3		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

授業プリントを毎時間使用します。余裕があれば、授業前に教科書とプリントに目を通し、学習する時代や前回の流れの確認をしておいた方が効果的です。プリントはノートに貼り、授業中の板書、メモなどをプリントのとなりに記入して下さい。また、ワークは授業に持参する必要はありません。予習復習に活用して下さい。



令和5年度（2023年度） 【文学シラバス】

教科	国語	科目	文学	2学年	選択	2単位
科目の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。					
教科書	文学国語 (教研出版)	副教材	完全マスター古典文法(第一学習社)・漢文精説(いずな書店) 古文単語330(いずな書店)・新訂総合国語便覧(第一学習社)			
準備物	教科書・ノート・完全マスター古典文法・漢文精説					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
		【思考力】	書く	読む		
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】		【表現力】	【行動力】 【共感力】	
割合	40%		20%	20%	20%	
A	文学的な文章の特徴や言葉のきまりなどについて十分理解し、身につけている。		文章の構成や展開、表現の仕方などについて、十分に吟味して工夫している。	作品の内容や解釈を踏まえ、感じ方、考え方を十分に深めている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、文学的文章に対する関心を十分に深めている。	
評点	30～40		16～20	16～20	16～20	
B	文学的な文章の特徴や言葉のきまりなどについて理解し、身につけている。		文章の構成や展開、表現の仕方などについて、工夫している。	作品の内容や解釈を踏まえ、感じ方、考え方を深めている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、文学的作品に対する関心を深めている。	
評点	30～20		8～15	8～15	8～15	
C	文学的な文章の特徴や言葉のきまりなどについて、理解が不十分である。		文章の構成や展開、表現の仕方など、不十分である。	作品の内容や解釈を踏まえ、感じ方、考え方が不十分である。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、文学的作品に対する関心を深めることが不十分である。	
評点	～19		～7	～7	～7	
評価方法	定期考査 テスト	小	定期考査 出物	提	定期考査	授業の様子 提出物

※定期考査について…評価の割合は知識・技能40%、思考・判断・表現60%(読む・書く)を定期考査に反映させる
(定期考査の構成は知識・技能40点、思考・判断・表現60点(読む、書く)で、その70～80を評価に反映させる)

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	山月記	作品設定の意図を考察する。
5	探究の扉 人虎伝	近代小説とその興起となった中国の伝奇小説との相違点を探る。
前期中間考査		
6	鍋セット	作品内容を踏まえて、登場人物の考え方や行動に対する感想を話し合う。
7	山椒魚	登場人物の心情と行動の関連性を考察し、説明する。
8	詩歌/永訣の朝	作者の心情を他の作品も踏まえて話し合う。
前期期末考査		
9	詩歌/短歌	短歌の鑑賞文を書く。
10	古典と現代語訳/源氏物語	原作と翻案作品を読み比べ、描写の違いを説明する。
11	大正の小説/探究の扉 現代日本の開化	小説と講演録からうかがえる「明治」という時代性を考察する。
後期中間考査		
12	文学的文章の創作/物語のおわり	作品中の物語の続きを創作する。
1	昭和初期の小説/探究の扉 忠直卿行状記	下敷きとした作品との関係性を踏まえて、両者の描かれ方の違いを探る。
2	詩歌/俳句	俳句を創作し、句会を開催する
3		
後期期末考査		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- ① 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方を理解し、語彙を豊かにする。
- ② 音読や朗読をして、文学的作品を理解する。
- ③ 文章の種類を踏まえて、内容や展開、描写の仕方などを的確に理解する。
- ④ 文学的文章を読むことを通して、我が国の言語文化について理解を深めること。
- ⑤ 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章にむかふよう工夫すること。
- ⑧ 文章の背景に迫り、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	保健体育	科目	保健	2学年	必修	1単位
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習を通して、心と体を一体として捉え、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。					
教科書	現代高等保健体育	副教材	図説 現代高等保健			
準備物	教科書・副教材・必要に応じてノート（指示あり）					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】	【思考力】 【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	40%	30%	30%
A	個人および社会生活における健康・安全についての知識・理論と技能が十分に身につけている。	健康について自分や他者、社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することが十分にできている。 目的や状況に応じて、自分の意見を他者に伝えることが十分にできている。	生涯を通じて自分や他者の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとする態度が十分に身につけている。
評点	32～40	24～30	24～30
B	個人および社会生活における健康・安全についての知識・理論と技能が身につけている。	健康について自分や他者、社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができている。 目的や状況に応じて、自分の意見を他者に伝えることができている。	生涯を通じて自分や他者の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとする態度が身につけている。
評点	16～31	13～23	13～23
C	個人および社会生活における健康・安全について、身につけるべき知識・理論と技能が不十分である	健康について自分や他者、社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することが不十分である。 目的や状況に応じて、自分の意見を他者に伝えることが不十分である。	生涯を通じて自分や他者の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むために身につけるべき態度が不十分である。
評点	8～15	6～12	6～12
評価方法	定期考査 授業時の確認テスト 提出・記録物の記述内容	定期考査 提出・記録物の記述内容	授業時の行動観察 提出・記録物の記述内容

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4 5 6 7 8 9	大単元 生涯を通じる健康 小単元1 生涯の各段階における健康	
	1 ライフステージと健康	ライフステージと健康の関連について学ぶ
	2 思春期と健康	思春期における体の変化を、女性と男性にわけて学ぶ
	3 性意識と性行動の選択	性意識の男女差について学ぶ
	4 妊娠・出産と健康	妊娠・出産の過程における健康課題を学ぶ
	5 避妊法と人工妊娠中絶	家族計画の意義と適切な避妊法について学ぶ
	6 結婚生活と健康	心身の発達と結婚生活の関係について学ぶ
	7 中高年期と健康	加齢にともなう心身の変化について学ぶ
	小単元2 労働と健康	
	1 働くことと健康	働くことの意義と健康とのかかわりについて学ぶ
	2 労働災害と健康	労働災害の種類とその原因について学ぶ
9	3 健康的な職業生活	職場がおこなう健康に関する取り組みについて学ぶ
前期期末考査		
10 11 12 1 2 3	大単元 健康を支える環境づくり 小単元3 環境と健康	
	1 大気汚染と健康	大気汚染の原因と健康への影響について学ぶ
	2 水質汚濁・土壌汚染と健康	水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を学ぶ
	3 環境と健康にかかわる対策	環境汚染による健康被害を防ぐ方法について学ぶ
	4 ごみの処理と上下水道の整備	ごみの処理の現状やその課題について学ぶ
	小単元4 環境と健康	
	1 食品の安全性	食品の安全性と健康とのかかわりを学ぶ
	2 食品衛生にかかわる活動	食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割を学ぶ
	小単元5 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	
	7 保健サービスとその活用	保健行政の役割について学ぶ
	8 医療サービスとその活用	わが国における医療保険のしくみについて学ぶ
1	9 医薬品の制度とその活用	医薬品の正しい使用方法について学ぶ
2	10 さまざまな保健活動や社会的対策	国際機関・民間機関などの保健活動について学ぶ
2	11 健康に関する環境づくりと社会参加	健康の保持増進のための環境づくりについて学ぶ
3	後期期末考査	

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- (1)「礼に始まり、礼に終わる」。円滑に人と関わり合うために、必要不可欠な行動様式である。毎回の授業で始まりと終わりの礼についても真剣な態度で臨もう。
- (2)ともに活動する仲間を大切にすること。そのためには、一人一人の違いを認めて、前向きで思いやりのある発言や行動を意識しよう。
- (3)各小単元での到達状況を測るために授業内テストをおこなう場合があります。授業で取り扱った内容を必要に応じて定期的に復習するように心掛けよう。
- (4)定期考査は2回実施します。出題範囲が広範囲に及ぶので長期的で計画的な対策を講じよう。
- (5)保健で学ぶことは自分の生活行動に直接繋がっています。語句の暗記にとどまる学習はやめよう。
- (6)保健の授業を通して身に付けることは健康に関する知識や技能、それを活用して思考したり表現したりする力であるため、他の教科・科目に応用できます。それを意識して高校の授業に臨もう。

令和6年度（2024年度） 【論理国語 シラバス】

教科	国語	科目	論理国語	2学年	必修	2単位
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を育成する。					
教科書	精選 論理国語 (数研出版)	副教材	新版七訂 新訂総合国語便覧（第一学習社）			
準備物	教科書・ノート・国語便覧					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		書く	読む	
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】		【行動力】 【共感力】
割合	40%	20%	20%	20%
A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分に身に付けられた。	他者に伝えることを意識しながら、適切な言葉を用いて、論理的に自らの思いや考えを文章で表現することが十分にできている。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、論理的、批判的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることが十分にできている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が十分に養われている。
評点	25～40	15～20	15～20	15～20
B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けられた。	他者に伝えることを意識しながら、適切な言葉を用いて、論理的に自らの思いや考えを文章で表現することができる。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、論理的、批判的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることができている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が養われている。
評点	10～24	9～14	9～14	9～14
C	実社会に必要な国語の知識や技能の習得が不十分である。	他者に伝えることを意識しながら、適切な言葉を用いて、論理的に自らの思いや考えを文章で表現することが不十分である。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、論理的、批判的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることが不十分である。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が不十分である。
評点	～9	～8	～8	～8
評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 提出物の内容	定期考査	提出物の内容 取り組みの様子

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	学問の発見 変幻	手の 文章の構成や論理の展開、表現の仕方に留意しながら、筆者の主張を理解する。
5	「内的成長」社会へ 体」から「抽象」へ	「具 筆者の主張を理解し、関連する文章や資料を基に、必要な情報を関係づけて、内容の解釈を深める。
6	前期中間考査	
7	国境を越える言葉 とコミュニケーション	ニュース 評論文と対談の文章の論理展開や表現の仕方に留意して、読み取る。
8	未来世代への責任	文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、筆者の主張を読み取る。
8	〈近代〉の入口と出口の間	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、筆者が考える問題の本質を読み取る。
前期期末考査		
9	科学・技術の歴史の中での社会 つながり	弱い 実社会における事象を積極的な考察し、筆者の主張を理解した上で、多面的、多角的な視点で読み取る。
10	疑似群衆の時代 されるスポーツ	消費 筆者の主張を理解し、文章構成、論理の展開などを的確に捉えながら、内容の論点を明確化する。
11	偶然とは何か の「クジラ」と人間の「鯨」	野生 文章の内容や解釈を多様な視点や異なる価値観と結びつけて、新たな視点から自分の考えを深める。
後期中間考査		
12	「である」ことと「する」こと	文や文章の組み立て方や推論の仕方について理解を深め推論の仕方に留意して読み取る。
	胆力について	論理的文章を読み、筆者の逆説的言説について理解する。
1	「手」の言葉 語は非論理的か	日本 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章構成や展開に仕方について理解を深める。
2	後期期末考査	
3	「安楽」への全体主義 き」の美学	「い 筆者の考えを踏まえ、現代社会についての自分の考えを具体例とともに論述する。

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- (1) 漢字や語句の意味等、重要だと考えられる語句について定期考査やその他の機会を通じて定着度をはかめる。それだけでなく様々な文章を読み、積極的に語彙量を増やすよう心掛けること。
- (2) [書くこと] に関しては、年間複数回の課題を作成・提出することを求める。課題は期限を守って確実に提出すること。
- (3) [読むこと] に関しては、教科書にある文章を教材として使用するが、定期考査ではそれら以外に初見の文章からも出題する。論理の構成や展開の仕方等、読み方を身に付けようとする事。
- (4) 主体的に読書することを強く勧める。書籍になっているもの以外にも、本校で毎日発行している「小論情報」や「本日のコラム」等を読むようにしよう。
- (5) 国語の授業を通して身に付けることは言葉に関する知識や技能、それを活用して思考したり表現したりする力であるため、他の教科・科目に応用できる。それを意識して高校の授業に臨もう。